

竹原委員（自民議連）

令和4年3月8日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）広島叡智学園について

広島叡智学園で進めている学びの変革の取組が全県に普及していくことが重要と考えるが、学びの変革のモデル校としての成果について、どのように考えているのか、教育長の所見を伺う。

（答）

広島叡智学園は、開校から3年目を迎え、中学校3年間を見通した教育課程が完成し、実践されており、とりわけ、探究的な学びでは、先進的な教育活動を展開しております。

その成果として、例えば、第2学年の「平和プロジェクト」では、海外の生徒と英語で活発に議論して、平和貢献策を考えたり、その効果的な発信手法として、アート作品で表現し、その様子を生徒会がSNSで世界に発信したりするなど、生徒に実社会の課題に向き合い、自分の考えや思いを堂々と表現する姿が表れているところでございます。

こうした先進的な取組やその成果につきましては、コロナ禍にあっても、特色ある教育活動の紹介や授業動画の公開などにより、学校から広く発信しております。

加えて、令和4年度から、県内の小中学校の教員及び市町教育委員会の職員を対象に、毎月2回程度、年間300名が学校を視察する機会を設けることで、広島叡智学園で進めている「学びの変革」の取組の成果を普及し、県全体の教育水準向上につなげてまいります。